



三菱ガス化学株式会社

平成 20 年 4 月 24 日

メタキシレンジアミン新設備の商業運転開始について

三菱ガス化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：酒井和夫、以下「MGC」という）は、水島工場（岡山県倉敷市）において年産 2 万トンのメタキシレンジアミン（以下「MXDA」という）製造設備の新設を進めてまいりましたが、この度試運転を完了し、4 月より本格的な商業運転を開始いたしました。

MXDA はメタキシレンを原料とするアミンで、エポキシ樹脂硬化剤、ポリアミド（ナイロン）、イソシアネート向けに外販するとともに、その過半を MX ナイロン、1,3-BAC などの誘導品の原料として自消しております。これら誘導品の成長に支えられ、MXDA の需要は年率 10% を超える伸びを示しております。また、今後ガスバリア接着剤など新たな誘導品の原料としても伸長が見込まれていることから、早期の生産能力拡大が期待されておりました。

新設設備は、MGC が開発した独自製造プロセスにさらに改良を加えたもので、操業の安定化と生産コストの削減を実現しており、これにより新潟工場（新潟県新潟市）の 2 系列 3 万トンと併せて、2 拠点、年産 5 万トンの安定供給体制が整いました。

MGC は、MXDA を始めとした誘導品の拡大に向けて、主原料であるメタキシレンの生産能力を 2009 年秋までに 15 万トンから 22 万トンに引き上げることも決定しております。今後もメタキシレン系化学品事業のパイオニアとして、付加価値の高い独自製品を開発していくとともに、同事業の拡大を図ってまいります。

【MXDA の用途】

主用途の MX ナイロンはガスバリア性に優れた樹脂で、その性能が高い評価を受け、PET ボトルや食品包装用のフィルム・シートなどに利用され、燃料タンク用途などにも開発が進んでいます。特に PET ボトルのガスバリア需要が拡大しており、多層またはブレンド用途で高い伸びを示しています。また、MX ナイロンをガラス繊維などで強化した成型材料「レニー®」は優れた強度・高弾性率を誇り、最先端の金属代替樹脂として自動車部品、電気・電子部品をはじめとする幅広い分野で使用されています。

エポキシ樹脂硬化剤分野では、環境対応型の重防食塗料として、船舶塗料などがけん引役となって需要が拡大しています。

また、今後は MGC が独自に開発したガスバリア接着剤「マクシーブ®」やその他の新規誘導品向けに、需要の拡大が期待されています。

<本件に関するお問い合わせ>

広報 IR 部 興石

TEL. 03-3283-5041